第１回長浜市未来創造会議　会議要点録

Ⅰ　日　時　令和５年６月２３日（金曜日）10時00分～12時00分

Ⅱ　場　所　長浜市役所本庁１階　多目的ルーム１・２（長浜市八幡東町632番地）

Ⅲ　出席者　鵜飼　修委員（座長）
岩嵜　博論委員　　桐畑　裕子委員　　北川　富美子委員
草野　丈太委員　　藤谷　法子委員　　松井　善典委員
磯崎　真一委員　　小出　篤委員　　中川　香奈子委員
船崎　桜委員
【長浜市】浅見宣義市長
【事務局】未来創造部　中嶋部長、森次長
政策デザイン課　柴田課長、服部課長代理、山﨑係長、饗場副参事、
小野副参事、伊藤主査、野村主査
未来こども若者局こども若者応援課　村﨑局長、茂森係長
デジタル行政推進局デジタル行政推進課　宮川局長、横田課長、今井係長

Ⅳ　内　容

１　開　会

事　務　局　開会を宣言

２　市長あいさつ

市　　長　【市長挨拶】
・本会議内の議論は今後５年間の長浜の戦略に深く関わる重要なもの。
・東京一極集中のなか、地方の人口流出を止め、社会増加するような戦略を立てていく必要がある。
・本市としては、「長浜に暮らす若者が、現在も、将来も、魅力を感じられるまちを創る」ことを目指していきたい。
・国も「異次元の子ども対策」として子どもに焦点を当てた戦略を建てられているが、本市においては「子ども」「若者」の両方に当てた。
・未来に夢が持てるようするには、各分野で活躍の皆さまのご意見が非常に大切と考えている。
・短時間ではあるが、活発な審議をお願いしたい。

３　委員紹介

事　務　局　各委員および事務局から自己紹介

４　会議の役割について

事　務　局　参考資料に基づき説明

５　正副座長選出

事　務　局　座長及び副座長は、委員間の互選により選任することを説明。
→座長に鵜飼委員、副座長に岩嵜委員が選任された。

座　　長　【座長挨拶】
・長浜市の未来を考えるにあたって、良いメンバーが揃った。
・この会議は忌憚ない意見をいただく場である。
・前もって用意していただいたことや、他委員の発言に基づいて意見をするなど、自由に発言していただきたい。

６　議　事

（１）（仮称）デジタル田園都市国家構想の実現に向けた
長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

事　務　局　資料４～６に基づき、長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に係る国の方針、市総合計画の概要、各計画の体系図、市総合戦略の策定方針を説明。

座　　長　・ここまでの事務局説明に対し質問はあるか。
～特になし～

座　　長　・続けて事務局から説明をお願いする。

事　務　局　資料７～１０に基づき、市総合戦略の策定スケジュール、目標および基本的方向、長浜市の人口動態等や市民意識調査の速報結果を説明。

座　　長　・本日は、デジタル田園都市国家構想について、長浜市まちひとしごと創生総合戦略の策定プロセスの一環ということ。
・今後の流れについて、今回の委員の意見を踏まえて、事務局で具体的な施策の素案を作成し、再度会議にて意見を集め、素案を作成する。その後、パブリックコメント前に再度会議を行い、最終的な確認を行うということ。
・総合戦略の策定という名目ではあるが、長浜市の未来をどうしたらいいかということについて、皆さんの忌憚のないご意見を順番にいただきたい。

委　　員　・資料８の“多様で柔軟な「働き方の創造」”のところで、子育て中の女性やアクティブシニアの活躍促進など書いてあるが、それだけではないと感じる。
・妊活中の方や、不登校の子がいる方、介護している人など。
・“個人の状況に応じた”とあるが、働き方を実現するには企業と探している人を結ぶ人、繋ぐ場所がないと難しい。

事　務　局　・時短で働かなければならない方の雇用が難しい現状のなか、本市においては、時短雇用を行われている企業で特に優れたところのロールモデルを共有して、時短雇用が企業にとってどういうメリットがあるか示す取組を進めてきている。

座　　長　・委員の意見としては、コーディネーターのような存在が欲しいということかと思う。イメージとして働き方の支援してくれるようなコーディネーター。

・例として、「働き暮らし応援センター“Tekito-”」。ここはしょうがいのある方の支援をされているが、企業とその人のことを全部調べた上でマッチングを図っている。

・“働き方の包括支援”みたいなものをつくるような発想かと思う。

事　務　局　・ビジネスサポート協議会が雇用創造協議会を設置し雇用環境の改善を進めている。委員の言われるコーディネーターの設置の視点はなかなか進めきれていないと思う。

・岡山県奈義町で「しごとコンビニ」という取組があって、このような事例を参考に、長浜らしい仕組みがつくれるか関係者と勉強会を開催した経過はある。原課とも調整しながら取組の提案をうかがってきたいと思う。

座　　長　・人材が必要。人材を誘致すれば人は増える。

・地域おこし協力隊でもいいが、報償を与えられる制度や仕組みをつくって人材を誘致できたらいいのではと思う。

・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・自分が住んでいるところは買い物も便利で自然も感じられるとてもいい環境だと感じているが、市民意識調査を見ていると「交通の便が悪い」という意見が多い。

・また、「住みにくい」点で思うこととして、昔ながらの「しきたり」があること。

・昔と比べれば簡素化されたと思うが若者からすれば、まだまだ面倒くさいだろうと思う。

・地域の関係が希薄になるのも寂しいが、見られすぎる状況も若者にとっては嫌になるのではないか。ほどよい関係性がいいのかもしれない。

事　務　局　・２点ほど教えてほしい。

・一つは、農村を活かした人を呼び込む視点についてアイデアがあれば教えてほしい。

・もう一つは、「しきたり」とは具体的にどういうことに嫌気を感じるのか。どういうところで女性は出ていってしまうのか。

委　　員　・女性に限った話ではないかもしれないが、地域行事や葬式など、隣近所が集まることについて、負担に感じる。

・農業については、イベント的に収穫体験などは若い人や子どもは自然体験として来てくれると思う。
・農業を「仕事」という視点で考えると、収入が低いこともあり、雇用として人を集めるのが難しく、人手不足である。
・基本給は都会の方が高いため、人材はそちらへ流れてしまう。

座　　長　・例えば給料を倍にするようなアイデアが出てくると可能性はあるということ。
・また、大学へのリクルートも方法として考えられる。
・農業で働くこと自体に魅力があったり、暮らしに魅力があったり、ライフスタイルに合いさえすれば、若者に刺さる可能性もある。
・では、次の委員の意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・移住定住で人を呼んでくることは大事だが、自分たちが生まれ育った地域で、また、生まれ育った家で生活をしていくことは大事だと考えている。
・住宅の改装費用の補助を出すなどすれば、新しく家を建てることだけでなく、古い家を改装することも選択肢になる。
・また、新しい家を建てることと、空き家対策の問題は競合してしまう。
・家庭の在り方の話にもなるが、親世代と一緒に生活していくことができれば空き家問題などいろいろなことが解決できるように思う。
・都市部と比べた賃金の話があったが、自分の会社では過去最大の賃金ベースアップや特別な報酬を設け給与水準を上げた。
・水準向上は社員についてきてもらうために進めているが、結果として企業の体力を奪っていくことになる。
・行政には、金銭的な部分ではなく、優秀な人材確保に繋がる支援や政策を進めていただけるとありがたいと感じる。
・地域の人に地域を知ってもらうきっかけづくりとして、全小中学校の人に賤ケ岳やスキー場のリフト券を無料配布している。地域を知ることで一人でも多く地域に残ってくれる人が増えればと考えている。
・こういった取組は券の配布など非常に手間のかかる作業が必要になるため、教育委員会とのやり取りで企業側の手間を減らす取組をしていただければ、企業側も協力しやすい。
・自分の集落の話になるが、地域に人を増やすために、地域おこし協力隊の人と積極的にコミュニケーションをとって、地域に残ってもらうように促す取組をしたところ、子どもも１０人まで増えて空き家も無くなり、自分が育った頃よりも子どもの数が多い状況に持ってくることができた。

座　　長　・子どもたちに地域を知ってもらうことは非常に大事だと感じる。
・そういう機会や機会を得やすい環境をどう作るかということが大事

だと思う。
・教育委員会とのやり取りについて誰がやるのかという話になる。行政には、その方法、仕組みを考えてもらいたい。

委　　員　・地域のなかには自分の生まれたところでも馴染めない人、地域行事や神仏関係など地域の文化が嫌な人間も多くいる。
・地域を残すのか文化伝統を残すのか、取捨選択をしていかなければならない時期かと考えている。

座　　長　・委員の考え方が新しい文化を作ってくるのだと思う。
・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・自分は、“田舎のおばちゃんは最強”だと思っている。
・自分は、仕事も含めて生活の悩みなどが住みにくさに繋がると考えている。
・自分の住んでいるところは、地域の人が家に来てくれたり、野菜など持ってきてくれたり、最初は戸惑ったが、地域でずっと暮らしてきて、地域の行事などもずっと支えてこられて、地域のことをよく知っている人が自分を支えてくれていることに安心を感じる。
・そんなおばちゃんが問題解決の糸口にならないかと思っている。

座　　長　・おばちゃん自身は自分を評価されたいとは思っていないが、それを大事にする地域でありたいということを私も思う。

委　　員　・煩わしいこともあるが、逆に安心感にも繋がる。
・自分もおせっかいおばちゃんを目指したいし、そんなおせっかいおばちゃんがいることで安心できるいい“まち”ができるのではないかと考える。

座　　長　・そういったことを継承できる仕組みもしっかり考えてもらいましょう。
・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・資料７の策定スケジュールや「若者が将来も魅力を感じるまち」について、どれだけの若者が参加し検討を進めるのか。
・自分も過去に行政の市民懇話会に呼んでいただいてから、行政のことに非常に関心を持てるようになった。
・自分の働く場だけでなく、地域のことも考えながら働けるようになり、やっと社会人になったと思っている。
・中学校や高校の学生が自分のことだけ考えて学生時代を過ごすこともちろんいいことだが、市政の場に呼んでもらうことや定期的な会議に呼んでもらうことで、例えばDXフェローのような肩書の人が長浜のことをとても褒めているということを若者が聞く体験ができる。
・子どもや若者を主役にするのであれば、彼ら彼女らの目線で語ってもらうプロセスを策定スケジュールに埋め込んでいただきたい。

・また、自分も先ほど委員が言われていた「文化をつくること」ということを言おうとしていた。
・長浜市を町屋に見立てた場合、ものすごく魅力ある建物だが、若者からしたら「寒くて不便」である。けれど、立ち寄った方からすれば「めっちゃええとこ住んでるね」と言われる。
・そういうこと言われて初めて自分の住んでいる町屋に愛着が湧くし、リフォームやポイントを絞った投資で利便性を上げることで不便は解消できるし、それを新しい価値として享受できる。
・インスタグラムやLINEなどを活用した横同士の一体感が若者の文化だと思う。交流がないと分断したまま都市部に出ていってしまい、戻ってくる理由がわからなくなる。
・少人数ながら仲間がいて、そこが戻ってくる理由になればいい。

座　　長　・戻ってくる理由の多くは挫折だと私は思う。
・長浜を町屋に見立ててという発想がすごくいい。
・新しい価値、若者の価値観が、その町屋や古民家（＝長浜）にどうあるのか、という考え方をするということが大切。
・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・自分は演劇で挫折して東京から戻ってきた。
・昔は地域の祭が嫌で、戻ってきてからも逃げ回っていたが、結局逃げられなかった。上の世代の人たちがすごく巻き込んでくることもあり、街なかを歩けば声をかけてくれる。東京ではこんなに声をかけられることもなかった。
・自分世代においても、同じように巻き込んでいくことが大事だと考えている。
・ただ、無責任に巻き込むのではなく、お金を生み出すようにしていくことが自分たちの使命と思う。
・目指しているのは、アートレジデンスというもので、外で活動しているアーティストの方に、地域に住んで地域の方と交流しながら作品を作っていただく。そして、ここで試演会をする支援を行い、その反応をみて、都会や海外に持っていき評価につなげるといったことができないかと考えている。
・豊岡市にやっている事例がある。
・長浜市は安い価格で使える公共施設が多く存在しているため、これを上手く活用して、外の人がこの地域に住んで作品を生み出すような交流ができないかと思う。
・若者にとって「自分は稼いでいる」と言えるような活動を進め、都会に出るという選択肢以外の部分を長浜で作れたらと思う。

座　　長　・稼ぐアイデアはあるか。この機会に市に主張した方がいい。

委　　員　・学校支援事業について委託を受けてやっているが、予算がどんどん少なくなっており、コロナも収まってきたことで需要は高まってきたが、現状はボランティア価格でやっているような状況である。
・若者が自分の表現の場を含めて、稼げる場所を作るということと、自分たちが長浜で作品や表現をすることで収益を得られるような仕組みづくりを自分はやっていきたいし、行政と一緒に取組みたいと思う。

座　　長　・企業の研修と演劇は相性がいいのではないか。
・企業も人材育成に困っている。
・演劇を取り入れたワークショップや、そのプログラムを提供して企業に出すなど考えられる。

委　　員　・演劇を絡めてコミュニケーションワークショップをされているところもある。
・企業とどう繋いでいけるか、繋げられるかが課題であり、繋げることについて支援してほしい。

座　　長　・企業も人材育成に困っている。
・演劇を取り入れたワークショップや、そのプログラムを提供して企業に出すなどが想定できる。
・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・資料９について、一つずつ見ていきたい。
・１１ページの人口推移について、いいグラフだと思う。年間1,000人の減少ということばかりに目が行くが、男女比を見ると女性が多い。
・女性が多い地域は活性化できるという相関関係が認められていて、良いグラフと考えられる。
・１２ページ、若者人口については真逆の状況を示していて、女性が圧倒的に少ない、減り続けている。
・女性目線での“まちづくり”が非常に重要なのではないか。女性の意見をどんどん反映させていかないと、女性人口流出の流れは止められない。
・女性にとって何が「住みづらい」か、他所でフィールドワークをやったことがある。理由として、一つに、「近所との濃密な付き合い」に疲れてしまう。もう一つに、「男尊女卑」、地方ほど地域行事などで男性がふんぞり返って、お茶汲みなどの準備は女性がするという文化が大きな影を落としている。
・１３ページ、年間単位の出生死亡数。婚姻数、結婚している世帯数のデータがあればと思う。
・伴侶を失った人は急激に外出の頻度が減る。すると、会話の数が減るので足腰が悪くなったり、認知症になる確率が圧倒的に高くなる。

・また、日本はフランスと違って結婚しないと子どもを産まない傾向がある。生物学的には結婚しなくても子どもは産めるが、多くの場合堕胎してしまう。日本は隠れ堕胎が非常に多い国で、婚姻をしないと出生数は増えないという相関関係がある。つまり、婚姻数を調べていく必要がある。
・１４ページ、転入転出数について、有意な傾向が出ている自治体はほとんど存在せず、多くはガタガタのグラフになる。
・ただし、転入数を増やすということは重要なテーマであり、そこをどうするか考える必要がある。このとき、だいたい転入“数”という数の議論をするが、私は“質”の議論がこれからは重要だと考えている。
・例えば、沖縄。人口増が大きいところだが、世帯所得は下がり続けている。人口がいくら増えても税収が増えないので、これはこれで問題であると考える。
・行政において、どういう所得者が転入してきているか、という分析も必要。
・自分自身、長浜に移住できるかどうか分析したが、「できる」という答えに至った。
・一番大きなポイントとしては新幹線駅の「米原駅」があること。長浜市じゃないことがミソである。新幹線駅が近くにあることで日本全国のビジネスができる。また、今度敦賀にも新幹線駅ができる。
・こんな地方で近くに新幹線駅が２つあるところは他にない。「交通の便が悪い」との市民意識調査意見があるが、あくまで“市内”の話であり、全国でビジネスしたい人を呼び込むにはこんなにいい環境はない。
・あとは、彦根を選ぶか長浜を選ぶかという選択になる。
・不動産屋をめぐって分析したところ、長浜の方が物件の値段が高い。なぜかと聞いたところ「彦根の方が、供給量が多い」ということ。
・２１ページ、デジタルのこと。期待する分野で「地域医療」が多く、地方では医療問題は注目される傾向にある。衰退する地方は医療に対する期待がない。
・「医療」「教育」「子育て」と並んでおり、包括して子育てに関するものが並んでいるように見られる。
・つまり、この分野のデジタル化をやっていけば十分に「子育て世代の転入」増加を図れると思われるので、ここはポジティブに受け止めたい。

座　　長　・論理的でわかりやすく説明いただいた。
・次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・「若者に、若者を呼び込む当事者になっていただく」ことが重要だと

考えている。

・東近江市の企業の取組で、研修や自己研鑽にポイントを付与するということをやっている事例がある。

・不純な動機かもしれないが、それをきっかけとして能動的な動きを促し、結果的に目的を果たすことができればいいのでは、と感じる。

・長浜を知る事、まちづくりをすることにつながる研修やボランティアなどをするとポイントが貯まり、長浜で使える割引券がもらえる仕掛けなどを作り、少しずつ当事者を増やしていく取組をしてはどうか。

・先ほど“おばちゃんは最強”という話があって、それに関連するようなことだが、畑仕事が自然で強固なコミュニティを生み、まちづくりにも様々な効果をもたらすのではと考える。

・若者の親世代で畑仕事に取り組んでいる者は少数である。親世代のコミュニティの充実も、若者が今後コミュニティに関わる動向を決める大きなポイントになるため、親世代へのテコ入れとしてこのような環境づくりを推進して頂きたい。

・人口減少について、近くの地域で人口を取り合うということに意味はあるのかと考える。

・人口が減ることによる不安、例えば身近なところで防犯や草刈りなどについて、問題意識を共有するための風通しの良い話し合いをスタートさせるなどして、周りの方々に取り組む姿を見てもらい、「なんとかなるんだ」という気持ちにつなげたい。

・また、長浜すべてを発展しようということでなく、コンパクトシティのことも考えていかなければならないと思う。

座　　長　・では次の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・先ほど草刈りの話があったが、自分の集落は 80 代も出てきて草刈りをやったりしている地域で、10 年 20 年後は 5 人とかでやっていかなければならないと考えると大変だと感じる。

・自分はもともと新聞記者をしていたが、過疎の最先端に入って、この身で社会実験を行うような気持ちで住んでいる。

・事務局にお聞きしたいが、この総合戦略のゴールは、施策の具体的なメニューをつくるのか。それとも素案のような理念的なメニューをつくるのか。

事　務　局　・今の段階では、総合戦略の目標と基本的な方向を議論いただいている。

・次の段階で、具体的な事業や KPI を柱立てにぶら下げていくような進め方をしていく。

委　　員　・自分は、若者女性の転出というところが問題と感じる。

・「女性が活躍できる」というのを口にすることは簡単であるが、数値

目標を掲げるなどして、具体的な達成像を見せることが大切だと思う。例えば、行政の方で女性管理職の割合の数値目標や、男性職員の育休取得の数値目標などを掲げるなど。

・調べたところ、長浜市では管理職に女性が占める割合が 32.2%で、全国の市区で 29 位と優秀であることがうかがえる。こういったことをどんどん外へアピールするべきだと思う。

・「市役所イケてるな」が「長浜市イケてるな」に繋がると思って頑張ってほしいと思う。

・現役世代、子育て世代に移住していただかなければならないと思う。

・有名なところで明石市のように子育て支援を充実させたり、多賀町のように若い世代への助成金や固定資産税の免除を検討するなど、近場の人が長浜を選ぶきっかけづくりは必要かもしれない。

・親子で山村留学をやっている地域が増えてきた。長浜市でも高時地区などの受け入れ体制のある地域が結構存在すると思うので、そういうことをすれば地域も喜ぶのではないか。

・また、“転職無し”で移住者を呼び込むという取組を国で進められている。都市部の高額所得者にもすぐ繋がり、雇用の場が長浜になくても成立するため、理想的である。

・フルリモートを推進している会社、企業側にアプローチしていくのも手であると思う。自治体と連携しているところも実際に存在しており、そういうことも考えられる。

・東京でテレワーク移住支援金というものがある。長浜もそういうことをやってみるとアピールポイントになると思う。

・農業の話で、「レンタル農園」が都会で流行っている。長浜にどこの人が来られるかわからないが、こういうことも考えられる。

座　　長　・ありがとうございます。

・では最後の委員さん、意見をお聞かせいただきたい。

委　　員　・本日の会議で出てきた「新しい文化」に着目した。

・長浜は、これまで昭和から平成の時代の成功モデルに上手く乗れていたところがあった。日本の文化社会は今まで変わることが特別大事ではなかったが、令和からポストコロナの時代になって、どう変わっていけるのかが自治体として重要であり、求められていると感じる。

・デジタルについて、主たる目的になってしまうと、訳がわからなくなる。今日の話を聞いている限りでは、「多様な人が多様な活躍ができる」ことを支援するのがデジタルや行政の施策の役割であるように感じた。

・今日のキーワードとしては、「場所」「繋ぐ人、結ぶ人」「学びの場」ということが多く見られた。

・最近、自分の周りでは軽井沢に移住する方が増えている。
・理由は、軽井沢に「風越学園」という学校ができたから。
・ここは、座学的な学校ではなく、探求型の学習という地域ならではの特性を生かした学校で、様々な世代が繋がることを強調したものとなっている。
・本日、高校留学の話もあったが、自分のゼミ生に神奈川県出身で高校留学により３年間を島根県で過ごした子がいて、彼は考え方が多様で、首都圏で生まれ育ちながら地域のことがわかる人材である。
・地域と都市を行き来することでそういった人材が生まれつつあるということも新しい文化だと感じる。
・そういった方、多様な方を受け入れられて、自身の活躍の場や、やりたいことができる環境をデジタル技術や行政施策で支援できるといいのではないかと思った。

座　　長　・委員の皆さんに発言いただいたご意見を、すべて実現できるような長浜市であれば素敵なのではないかと感じるとともに、行政には実現できるように頑張っていただきたい。

７　その他

事　務　局　・今後のスケジュール等について説明
　次回会議：８月３日（木）１０時から（予定）
・会議の公開について確認
　後日ホームページに掲載。事前に内容確認をメールで行う。

座　　長　・次回会議にて、高校生を呼ぶことは可能か。

事　務　局　・検討する

８　閉会

事　務　局　未来創造部長より閉会の挨拶

部　　長　【部長挨拶】
・本日の会議を通して、我々の考えの欠けている点を教えていただけたと感じる。
・子どもの声を聴いていくという視点について、今年度から特に力を注いでいこうとしている。
・様々な団体や学校などで声を聴いていく取組やアンケートの実施などを予定している。
・皆さまのお子さんや周囲の子どもたちにも機会が巡ってくると思うので、ぜひ参加いただけるよう背中を押してあげてほしい。
・本日は熱い議論ありがとうございました。